

「ふるさと“とちぎ”再発見シンポジウム」を開催しました。

栃木県及び栃木県農地・水・環境保全向上対策推進協議会は、2月12日（金）に、栃木県教育会館において、「ふるさと“とちぎ”再発見シンポジウム」を開催しました。本シンポジウムは、『ふるさと“とちぎ”再発見』をテーマといたしまして「とちぎの農業・農村の魅力」、さらには「人と人との絆」や「自然や生きものとの係り」などについて、改めて皆様と一緒に考え、将来の子供達への継承や、元気な地域づくり・人づくりに繋げていきたいという思いから開催したもので、活動組織をはじめ一般県民、行政関係者など約810名の方が参加しました。

第1部は、昨年度から実施している生きものマップコンテストの表彰式などを行い、審査委員長である宇都宮大学農学部の水谷正一教授から「作品を地域内だけでなく、多くの人に見ていただき、その楽しさを分け与え、地域の取り組みに引き入れ農業や農村の素晴らしさ、ふるさとの魅力について伝えていただきたい」との講評をいただきました。

第2部は、絵本作家のいわむらかずお氏が「田園風景が美しく輝いて見えるのは」と題して、里山の広いフィールドで農業体験を行うなど、『絵本』と『自然』と『子ども』をテーマとした自然体験イベントを通じた、ふるさととちぎの魅力について講演されました。

第3部では、「農村の魅力、再発見」をテーマとしたパネルディスカッションを行いパネラーからの体験に基づく意見、提言に会場を埋めた参加者は熱心に聞き入っていました。

農業・農村におきまして、農業従事者の高齢化や後継者問題をはじめ、耕作放棄地拡大への適切な対応など、多くの課題が顕在化している状況の中、今後とも農村環境の保全向上に向けた取組について多くの県民の参画と共感をいただきながら、元気で活力あるとちぎの農業農村づくりを推進していきます。

